

第3回「エコシティたかつ」推進会議 摘録

日 時：2010年3月11日（木） 15:00～17:30

場 所：大山街道ふるさと館 2階イベントホール

出席者：岸委員長／横山滋副委員長／小島委員／水谷委員／住田委員／伊中委員
川辺委員／若杉委員／三島委員／井坂委員／小林委員／坂本委員
五十嵐／新井勇／柿崎／星／中村／加藤（事務局）
江田雅子氏（高津区「たちばなブランド」創出推進事業協働実施団体）
梶谷／廣井（コンサルタント）

1. 開会

岸委員長からの挨拶、及び資料確認を行った。岸委員長の進行のもと、次第に沿って確認、意見交換を行った。

2. 前回会議の振り返り

摘録（資料1）に沿って、前回会議で検討した内容や意見について振り返った。

3. 2009年度「エコシティたかつ」推進事業の報告

<ヒートアイランド調査>

首都大学東京の饗庭准教授より、調査結果概要について報告いただいた。市民参加型調査として、夏と冬、それぞれ早朝と日中に、電子温度計とGPSを持ち8コースに分かれ、2～3人1組で調査した。一調査の中で、5℃違う場所もあり、地形や人口密度など様々な観点からの分析を加えながら、来年度以降も調査を継続し、今後の対応に役立てたい。

<2009年度事業報告>

事務局より、パワーポイントを使って、「エコシティたかつ」推進方針の確認と、2009年度の12のプロジェクトの進捗報告を行った。

4. 推進フォーラムの報告

事務局より、2月27日（土）に高津区役所1階市民ホールで開催した推進フォーラム「食べる 育てる in たかつ～100年後のたかつのまちのために～」について報告を行った。今回は、「たちばな農のあるまちづくり」と合同で開催し、天体戦士サンレッドのヴァンプ將軍の登場や、たちばな地区の野菜で作った鶏だんご鍋の試食、両推進事業の活動紹介やミニ講演、トークセッションなどを行い、のべ270人の来場者をむかえることができた。プログラム内容についてのアンケートでは、約9割の人から良かったとの回答をもらった。

続いて、当日出演された委員の皆さんから、感想をいただき、あわせて推進フォーラムや「エコシティたかつ」関連の新聞記事（2009年から2年分）を回覧した。

- ・鶏だんご鍋の試食や、小学生によるビオトープ報告、ミニコンサートなど、体感できるイベントだった。成功体験に参加でき、感謝している。（司会）
- ・サンレッド効果により何も知らない人へPRでき、良かったと思う。サンレッドは人寄せのような感もあるが、悪いものではないと思った。（トークセッション話し手）
- ・1階ホール的空間が良く、場の力をとても感じた。意識向上をいかに生活に活かしていくかがポイントだと思う。（トークセッション話し手）

5. 2010年度、及び中長期の展開について

事務局より、資料4に沿って2010年度及び中長期の展開案について説明を行った。以下、主な内容を記す。

<12のプロジェクト>

- ・地図による地域環境資源の共有化の促進では、スケールアップした模型（1/2,000）等を使い、適応策のデータ収集を行いたい。また、岸先生、田中先生、饗庭先生にご協力いただき、市民参加型で環境技術産学公民連携公募型共同研究事業への応募を検討している。
- ・学校流域プロジェクトでは、2009年度作成したビオトープマニュアルをもとに、学校や地域と連携して、ビオトープなどの整備を進めたい。
- ・雨水タンクについて、2009年度はモニターを3件公募した。2010年度は、大山街道ふるさと館など公共施設に設置できればと考えている。
- ・エコ企業調査プロジェクトでは、2009年度はミットヨさんでプレ調査をさせてもらった。2010年度は一般公募し、市民の参加を広げたい。

<中長期的なプロジェクト>

- ・川崎市では第3期実行計画（2011～2013年度）を2010年度に検討するが、推進会議でいただいた意見やアドバイスを反映していきたいと思っている。
- ・仮称「たかつ地域水循環計画」や複合型氾濫マップについては、新たに全市的な水循環計画検討委員会がスタートし、2011年度に計画を策定予定のため、浸水データや経験知としてある市民の情報を集め、区レベルで何をやるのか位置づけていけるようにしたい。
- ・仮称「たかつ自然の賑わいづくり計画」については、川崎市として生物多様性地域戦略を2012年度に策定予定だが、高津区の特性を活かして連携していきたい。
- ・多摩川崖線の緑の保全等の取り組みについては、高津区まちづくり協議会等と連携し、適応策の視点を入れながら、安全な谷戸や斜面緑地が保全できるように進めたい。
- ・復元水系図の作成については、二ヶ領用水竣工400年（2011年3月）に伴い、建設局河川課で水路再現図を作成予定であるため（事業実施はNPO法人多摩川エコミュージアム）、上手く連携していきたい。

- ・行政区レベルでの環境マネジメントの取り組みについては、区独自で、環境視点を盛り込み、予算要求や事業評価で環境マネジメントを始めている。
- ・小さな循環・生ごみリサイクルシステムの構築については、ダンボールコンポストの活用など、小さな循環の取り組みのきっかけを作りたい。
- ・「緑の回廊」づくりについては、かすみ堤について、川崎市として国に意見書を提出しているが、地元や議会の動きを受け、市として庁内検討会議（座長：高津区役所副区長）を開始した。
- ・これからの検討課題についても、地域交通政策など前倒しで行えるものは行いたい。

事務局の説明後、各プロジェクトの内容や推進体制について意見交換を行った。

- ・体制が変わっても、続けていくことが重要。
- ・12のプロジェクトはどういった予算や力の配分で進めていくのか？
- ・他の課題への波及効果を考え進めていきたい。予算配分で言うと、黄色の網掛けがエコシティ本体の予算となり、それ以外は、区の協働推進費や環境局の予算等を充てている。
- ・現場の実情に即し、プロジェクトそれぞれの重みで進めて良いと思う。
- ・皆さんの意見を聞いて、色々と勉強させてもらっている。テーマについてはゴミに関心があるので、その視点から関わっていきたい。
- ・成果のあたりやすい部分にしばって進めてはどうか。
- ・学校ビオトープをどうやって広げていくか課題だと思う。西梶ヶ谷小学校では、助成金をとり、雨水タンクを地域のおやじの会（わかたけ会）と連携し、設置した。地域の人も注目しており、PR効果は高いと感じた。学校は予算が少ないので、上手く他の学校にもアドバイスし、一緒に進めていきたい。
- ・学校流域プロジェクトを上手く進めることができると、全国区のトップモデルになるだろう。鶴見川流域の小学校については、鶴見川流域の政策とタイアップして進め、多摩川流域の小学校については、高津区独自の事業として進めていくと良い。
- ・「たちばな農のあるまちづくり」では、蜂蜜カステラやレモン・ユズ・しょうがせんべい、白菜キムチづくりの地域ブランドづくりや、農家の手伝いに行く援農プロジェクトに取り組んだ。推進会議には3つの部会があるが、2010年度は「エコシティたかつ」推進会議とも交流していきたい。推進フォーラムでコーディネーターの嵯峨さんから、川辺さんはアーバンファーマーだというお話があったが、是非連携したい。コミュニティ・カフェなど拠点も作りたいたいと考えている。
- ・川崎市の農の取り組みの中で、インターフェイスとしてたちばなが突出していると思う。
- ・推進フォーラムでは、鶏だんご鍋の評価が高く、「食」がテーマになり得るのではと思った。プロジェクトは予算や縁、出会いがあると思うので、出来ることからやり、種をまいていけば良いと思う。「交通」については、バスへの要望が高いことが意識調査で分かり、また地域にコミュニティのあるところとないところでは課題解決速度が異なることが分か

った。「食」や「交通」は市民に伝えやすいテーマなので、地域コミュニティと絡めて進めていけば良いと思う。

- ・ヒートアイランド調査に参加したが、水辺や緑のあるところは、温度が低いことも分かった。私が住む坂戸地区も KSP の緑が影響してか、周辺より 1~2℃低いようだ。まちづくり協議会では、たかつの散歩道などの区民への PR や、水を含めた崖線回復計画づくりなど進める予定なので、「エコシティたかつ」とも今後も連携していきたい。

- ・緑のカーテンやエコ・エネライフコンクールなど普及啓発活動が先細りしないようにがんばりたい。たちばな地区は、生産者と消費者が近いのでおもしろい場所だと思う。ミニ・ガーデンと区の連携についても、今後相談しながら進めていきたい。

- ・4月から組織体制が変更になり、緑のセクションが区の管轄になる。

- ・まちづくり協議会主催の「高津学」の一環で、でこぼこワークショップを1月23日開催した。地形を感じながら自分のまちを見るのは楽しかった。地形で暮らしを考え、再設計することを是非進めたい。まちなか油田プロジェクトは、29箇所の回収ポイントの皆さんにご協力いただいているが、点で進めていくのは限界がある。今後は、町内会など面としてアプローチし、地域内資源循環を目指したい。エコ企業調査については市民目線で参加し、企業と地域の連携に関心を寄せている。どのプロジェクトも興味を持った人を巻き込みながら、地域に広げていく必要があると思う。どうやってサポーターづくりをしていくかなど、推進会議で議論をしたい。

- ・2009年度はようやく「エコシティたかつ」が根付いてきたので、2010年度からこれからだ！という思いで、より PR 活動を進めていきたいと思う。梶ヶ谷小学校での井戸掘りに参加したが、防災の観点から町内会や公園でもできないものか。エコ企業調査では、典型的な中小企業、工場へもアプローチし、特に 246 周辺の工場などに、緑のカーテンに取り組んでもらいたい。

6. 会議のまとめ

小島委員、水谷委員、岸委員長よりコメントをもらい、まとめとした。

- ・マップを作り、それをどう使っていくか、「use」について考えることも重要である。水循環と物質循環は多層的につながっており、地域循環圏として括ることができる。地域の捉え方も、アジア、日本、市、区とそれぞれある。地域循環圏をどうつくっていくかがポイントだろう。環境マネジメントについて、区で独自に出来ているのはすばらしいことなので、育てて行って欲しい。予算は無限にはないので、既存事業の組み換え・横断的マネジメントが必要である（保健福祉—健康—アダプテーション—雨水利用など）。括り方を変え、イメージを変えることも必要である（歌声喫茶—世代間交流—複合的な政策など）。

- ・新聞記事を見せてもらったが、多数取り上げられており、この2年間の皆さんの成果であり、また今後の活動を進めるにあたり励まされるものである。エコ・エネライフコンクールは、企業が参加していることが分かるような形にできれば良いだろう。エコ企業調査

については、新しい参加者や共感を持ってくれる人を増やしていくしかけにもなるので、地味だが進めていった方が良いと思う。長崎では、子ども環境監査という取り組みがあり、地域のエコ意識向上に役立っている。種まきをしながら、目に見える成果を発掘し、今後の推進体制につなげるスキームをつくるのがポイントだろう。

・適応策やランドスケープを重視した計画は、2009年度は逆風だったが、今は順風、そのうち、国をあげて取り組むことになり、猛烈な追い風となるだろう。いち早く名乗りを上げておいて高津区は何をやっているのかと、おいていかれないためにも、戦略的なものと、日常的なものを組み込んで、頑張っていきましょう。

学校流域プロジェクトは、応援団（推進会議）を作って、雨水タンクの設置など行い、まずは小学校で、中学校、高校、大学は急がず、進めることが重要である。二ヶ領用水流域は、3川合同氾濫域であり、全体を通じた計画が必要である。中長期プロジェクトについては、整理が必要であると思う。12のプロジェクトでは、マップ（多元的なもの）、学校流域プロジェクト、農のまちづくり、雨水、エコ企業調査（CO2削減だけではなく生物多様性にも取り組む企業が出始める）に力を入れて進めたら良いだろう。

7. 記念撮影／閉会

次期推進会議の日程等については、4月以降、事務局から連絡する。

以上